



最初にお読みください

# CentreCOM® AR260S V2 リリースノート

この度は、CentreCOM AR260S V2 をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書（613-001109 Rev.A）、リファレンスマニュアル（613-000685 Rev.E）および設定例集（613-000902 Rev.C）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ファームウェアバージョン 3.1.0

### 2 本バージョンで追加された機能

ファームウェアバージョン 3.0.0 から 3.1.0 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

#### 2.1 ダイナミック DNS 機能



「リファレンスマニュアル」/  
「3 WAN 側インターフェースの設定」/  
「3.5 ダイナミック DNS の設定」

ダイナミック DNS サービスに対応しました。端末型インターネットサービスへの接続時に取得した IP アドレスに対応する FQDN をダイナミック DNS サーバーに登録可能です。

IP アドレスが変更された時は自動でダイナミック DNS サーバーに再登録を行います。また、IP アドレスの変更とは無関係に、定期的に登録を更新できます。定期更新の周期は 1 日単位で任意に設定できます。



対応するダイナミック DNS サービスは DynDNS.com (<http://www.dyndns.com/>) のみになります。

#### 2.2 UPnP 機能



「リファレンスマニュアル」/  
「5 ファイアウォール/NAT の設定」/  
「5.11 UPnP の設定」

UPnP クライアントによるポートマッピングルールの追加 / 削除が可能です。また、ポートマッピングルールのタイムアウト時間を任意に指定することが可能です。



NTT 東日本 / 西日本の VoIP アダプタとの動作を確認済みです。なお、VoIP アダプタは 1 台までしか接続できませんのでご注意ください。

---

## 2.3 ブリッジ機能

 **「リファレンスマニュアル」 / 「1 運用・管理」 / 「1.4 機能の有効化 / 無効化の設定」**

IPv6 ブリッジと PPPoE ブリッジをサポートしました。ブリッジ機能と IPv4 パケットのルーティング機能は同時にご利用いただけます。

- IPv6 ブリッジ  
LAN 側と WAN 側の機器間での IPv6 通信をブリッジします。
- PPPoE ブリッジ  
LAN 側と WAN 側の機器間での PPPoE 通信をブリッジします。

---

## 2.4 IPsec の機能拡張

 **「リファレンスマニュアル」 / 「6 VPN の設定」**

- TOS 値のコピー機能  
暗号化前のパケットの TOS 値を暗号化後のパケットにコピーします。
- FQDN peer  
ダイナミック DNS 対応により、FQDN で指定されたホストアドレスを持つルーターに対して、本製品をインシエーターとして IPsec 通信を行うことができます。
- NAT-Traversal  
IPsec ルーター間に NAT 装置が存在する場合でも、本製品をインシエーターとして IPsec 通信を行うことができます。



ヒント

NAT-Traversal 機能は draft-ietf-ipsec-nat-t-ike-02.txt、draft-ietf-ipsec-nat-t-ike-03.txt、RFC3947 に、UDP Encapsulation 機能は RFC3948 に基づく動作のみサポートします。

---

## 2.5 NAT の機能拡張

 **「リファレンスマニュアル」 / 「5 ファイアウォール/NAT の設定」**

- ICMP-ID 処理  
ICMP-ID の NAT 変換に対応しました。これにより、LAN 側の複数のクライアントからの ICMP パケットの NAT 変換が可能になりました。
- パススルーの対象トラフィックの追加  
[ファイアウォール/NAT]→[NAT設定]→[NAT]において、パススルーの条件として、本製品が送信するパケット (IKE/ESP) を指定できるようになりました。UDP ポートの 500 番を本製品に予約し、本製品から IPsec 通信を行うことが可能になります。



注意

パススルーの対象に「本製品」を指定した場合、LAN 側に設置された機器からは IPsec 通信ができなくなります。

### 3 本バージョンで仕様変更された機能

---

ファームウェアバージョン 3.0.0 から 3.1.0 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が仕様変更されました。

#### 3.1 DNS キャッシュポイズニング脆弱性対策

---

JVNVU#800113「複数の DNS 実装にキャッシュポイズニングの脆弱性」の対策を実施しました。

DNS リレーで WAN 側に送信される DNS query パケットを、固定の送信元ポート番号ではなく、パケットごとにランダムな送信元ポート番号で送信するよう変更しました。

#### 3.2 ファイアウォール、NAT セッション保持時間の設定追加

---



「リファレンスマニュアル」/  
「5 ファイアウォール/NAT の設定」/  
「5.7 タイムアウトの設定」

DNSキャッシュポイズニング対策に伴い、[ファイアウォール/NAT]→[アドバンスド設定]→[タイムアウト設定]にDNSの設定項目を追加しました。また、これにあわせて、以下の項目のタイムアウト設定についてデフォルト値の見直しを行いました。

- 変更前
  - DefaultTcp : 600 (秒)
  - TcpReset : 20 (秒)
  
- 変更後
  - DefaultTcp : 300 (秒)
  - TcpReset : 5 (秒)
  - DefaultDNS : 20 (秒、新規追加)



以前のファームウェアからバージョンアップした場合は、DNS 以外の値は以前の設定が引き継がれます。

#### 3.3 Web GUI に関する変更

---

Web GUI に対して以下の修正、および改善を行いました。

- かんたん接続に、UPnP/ブリッジの設定画面を追加しました。
- かんたん接続で設定される NTT 東日本のフレッツ・スクウェアの経路情報を更新しました（平成 20 年 9 月 1 日現在の内容）。
- かんたん VPN に、ダイナミック IP アドレス同士の接続形態を追加しました。
- 再起動時のカウントダウンを 60 秒から 80 秒に変更しました。

## 4 本バージョンで修正された項目

---

ファームウェアバージョン 3.0.0 から 3.1.0 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 IP インターフェースに対して、クラス標準でないネットマスクを設定している場合、そのサブネットにおけるディレクティブブロードキャストアドレス宛パケットを正しくルーティングできませんでしたが、これを修正しました。

## 5 本バージョンでの制限事項

---

ファームウェアバージョン 3.1.0 には、以下の制限事項があります。

### 5.1 PPPoE インターフェース複数使用時の IPsec 経路変更

---

PPPoE インターフェースを複数設定し、仮想トンネルインターフェースを使用する IPsec 環境において、IPsec 対向機器に対する経路（ルーティングテーブル）を変更する場合は、一度「切断」ボタンを押して PPPoE インターフェースを切断してから行ってください。

## 6 取扱説明書とリファレンスマニュアルについて

---

最新の取扱説明書（613-001109 Rev.A）、リファレンスマニュアル（613-000685 Rev.E）および設定例集（613-000902 Rev.C）は弊社ホームページに掲載されています。本リリースノートは、上記の取扱説明書、リファレンスマニュアルおよび設定例集に対応した内容になっていますので、お手持ちの取扱説明書、リファレンスマニュアル、設定例集が上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>